英　語　科

端崎　圭一
山岸　律子
渡村のりこ
研究協力者　滝沢　雄一（金沢大学）

１．ＥＳＤを進めるにあたって

本校の研究テーマを受け，英語科でもどのようなことを念頭に授業作りをしていくのか次の三点を確認した。

まず，教科の目標や育てたい力を第一に考えるということである。英語科の目標は「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」である。これを基本に各学年の教科の目標を生徒が達成できるような授業をめざすことにした。同時に，現行の学習指導要領の基本的考え方にあるように，各教科において育成する学力の重要な３要素の一つである「思考力・判断力・表現力等の育成」を重視していくこととした。

二つ目は，上記の教科の目標や思考力・判断力・表現力等の育成をめざしながら，ＥＳＤ（Education for Sustainable Development；持続可能な開発のための教育）の視点に立った学習指導を行っていくことである。その際に，持続可能な社会づくりの構成概念に関連させて，ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度すなわち①代替案の思考力，②未来像を予測して計画を立てる力，③多面的，総合的に考える力，④コミュニケーションを行う力などをどのように育成するかを考えていくことにした。

三つ目は，他教科で扱っている教材を意識して，教材の「つながり」を考えながら指導していくことである。例えば，同じ題材の教材をどの教科でいつ扱うかを考えて指導することで，生徒の理解をより深めていきたい。また，同じ題材であっても違う教科で扱うことで，違う能力・態度を育成することにつながり，ＥＳＤをより統合的・複合的に指導することにつなげていきたい。

この様に，昨年度と今年度の研究では英語科の目標や思考力・判断力・表現力等の育成を第一にすることを念頭に置きながら，ＥＳＤの視点に立った授業作りを行い，他教科との教材の「つながり」を考えながら研究を進めていくこととした。

２．能力・態度の育成にあたって

（１）中心的に扱う能力・態度について

教科の目標を踏まえると，ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の中では特に④コミュニケーションを行う力を重視することになる。加えて，教材や単元によっては①代替案の思考力②未来像を予測して計画を立てる力，③多面的，総合的に考える力を重視することもある。

（２）従来の研究とのつながりについて

これまで英語科では，表現活動において思考・判断の様子が見られると考え，自分の考えを人に話したり，読んだことをもとに自分の体験を書いたり，人と話した後で自分が話したことをまとめて書いたりさせてきた。このように技能を統合させて表現活動に取り組みながら，ＥＳＤの視点に立った能力・態度を育成することを重視してきた。以下は昨年度（平成26年度）の例であるが，

第１学年の“リサイクル活動”ではリサイクルのために自分ができることを考えてお互いの意見を話したり聞いたりすることで，「コミュニケーションを行う力」を，第２学年の“If you Wish to See a Change”では今後環境のために何ができるかを考えて自分の考えを書いたり，人に話したりすることで「未来像を予測して計画を立てる力」や「多面的，総合的に考える力」を，第３学年では“Faithful Elephants”で物語から戦争の歴史を考え，過去の歴史から学び建設的な未来のために「批判的に考える力」の育成を目指しながら，物語の登場人物になったつもりで手紙を書いたり，戦争についての自分の考えを書いたりした。

英語科では「コミュニケーションを行う力」を育成することを前提としながらも，生徒の発達段階や扱う題材に応じてその他のＥＳＤの視点に立った能力・態度を育成することができるということが言える。

（３）教材の「つながり」について

英語の表現力は母語の表現力に比べるとかなり未熟であると考えられるが，それが生徒達の思考力・判断力が未熟であることを意味するわけではない。母語である日本語で思考し，判断したことを英語で表現するためには，英語で「聞く」「読む」「書く」「話す」の技能を育成する必要がある。そして技能を育成するためには，表現するための知識や自分の考えがなければならない。その知識や考えの基盤を作るために他の教科とのつながりがとても有効である。単元の題材が他の教科と共通していたり，他の教科で得た知識が基盤となっていたりすると他教科で学んだ知識をもとに思考しながら英語で文章を読んだり，自分の考えを表現したりするときに，日本語と英語の表現の違いに気付いたり，他の教科で学んだことが先行知識となって理解や表現を助けたりする。又，英語科で学んだ内容が他教科で学ぶ際の刺激になり，他教科での関心・意欲・態度の向上につながるようなこともある。さらに，学年を超えて同じ題材に取り組ませることで，以前は考えられなかったことを考えたり，異なる見方をできるようになったりすることがある。生徒はこれらの教科間・学年間のつながりを感じることにより，意欲が高まる。それぞれの教科や学習内容における思考が相乗的に深まり，ＥＳＤの視点で重視する能力や態度を育成することが期待される。

今年度第１学年では「リサイクル活動について言う」という活動を行った。この単元では複数形が導入され形式を理解した後，自分が取り組んでいるリサイクル活動について“We collect bottle caps.”“We collect pet bottles at home.”と言ってみる活動である。これにより教科の目標である「複数形を用いて自分が実際に集めているものを表現する」とＥＳＤの視点で重視する「コミュニケーションを行う力」「進んで参加する態度」を育成することができる。その後，家庭科でリサイクルのしくみや集められるものについて学ぶことで，生徒はリサイクルを別の視点から見直し，自分ができることをもう一度考える。そして第３学年の単元で再度リサイクルについて学ぶとき，「自分は何ができるか」をさらに深く考え，表現することができる。ここで他教科との「内容的なつながり」や同じ教科の「時間的なつながり」が，思考力・判断力・表現力を育成することがわかる。

第２学年では英語科と国語科の両方で，一つの作品を同時期に読むことに取り組んだ。一つ目の実践は７月に行った。英語科で“The Pillow”という星新一氏の作品を読み，物語が始まる前の話を英語で考えたり，登場人物の性格や行動を考えたりして読み進め，国語科ではその原作である「新発明のマクラ」を日本語で読み，英語では表現されていない部分や，英語と日本語で表現や細かな

意味の違いなどを比較した。二つ目の実践は１１月に行った。一つ目の実践と同じく星新一氏の作品を取り上げ，英語科と国語科でそれぞれ同じ箇所まで読み，その続きを考えるという表現活動を行った。生徒が自分の言いたいことを表現しようとするときに言語の特性や文化的な背景に気付き，適切な言葉を選択することは思考・判断を伴う。また，表現することが技能の能力を高めることにつながり，これが「コミュニケーションを行う力」の大きな基盤となることが期待される。
第３学年では社会科で，今後期待される新しいエネルギー資源について学び，英語科の授業で，「クリーンエネルギーの必要性」や「自分が思うベストクリーンエネルギー」を考え，それを英語で表現するという活動を行った。その際，適切な言葉を選択したり，比較したり，決定したりといった判断が繰り返し頭の中で行われることになる。英語科の教科としての技能を高めると同時にＥＳＤの視点から重視する，未来像を予測して計画を立てる力を育成することができると考えられる。

３．成果と課題

（１）各学年の成果と課題

①第１学年の成果と課題

１年生では，「リサイクル活動」（「環境」）と「国際フードフェスティバル」（「国際理解」）を題材として，２つの実践を行った。どちらの実践も英語科の目標であるコミュニケーション力を育成することを軸に授業を展開したが，一方で，ＥＳＤの資質・能力に関して，前者で「進んで参加する態度」を，後者で「多面的，総合的に考える力」を育成することをねらいとした。これらの観点について，毎授業後に生徒が書く振り返りカードの記述から感想をいくつか拾い考察してみたい。

〔英語科の目標：コミュニケーション力の育成〕

・リサイクル活動

自分のリサイクルの日を英語で言う，書くことができました。／自分の家で集めている物を英語で言えた。／リサイクルする物の名前などが英語でわかりました。／自分の地域で集めているものを発表したり，疑問詞をつけて質問したりしました。これからも使っていきたいです。

・国際フードフェスティバル

他の国では同じカレーでも，全く違うんだと思った。そして，英語で言えたのでよかった。／国それぞれいろんな人がいていろんなものを食べていることが分かり，それを英語で言えて良かったです。／様々な文化について知れたし，英語での言い方も分かってよかった。

〔考察〕

２つの授業とも，「環境教育」や「国際理解教育」が主軸ではなく，あくまで，英語を用いて何かができるようしたいという授業者のねらいがある。その観点でいうと，生徒の振り返りに「英語で」という表現が多々あったことは好ましいことである。

〔ＳＤの資質・能力〕

・リサイクル活動：進んで参加する態度

僕もリサイクルしてみたくなった。／いろいろなものを家ではリサイクルしていた。／具体的に何を集めているのか，いつ集めているのかを自分で言うことができた。／キャップを集めることでた

くさんの子供が救えることが分かったので，これからも続けていきたい。／私でも貧しい子ども達を救えるかもしれないので，もっと積極的にしようと思いました。
・国際フードフェスティバル：多面的，総合的に考える力
他国の文化もあるし，そこは尊重し，英語でついついバカにするような発言はしないようにしたい。／日本人から見ると「strange」でも，そこの人からするとふつうで，むしろ，違っているのがおもしろい。／世界の人々から見ると，日本食も不思議に見えるのかと思った。／社会でもやったようなやり取りが英語でできて面白かった。／いろいろな国の食文化を知ることができた。社会にも生かしたい。／今日は英語とともに社会のことも少し復習できました。また，日本と世界はたくさん違う点があることを知った。

〔考察〕

進んで参加する態度についていうと，実際にリサイクル活動ができるようになって初めて，持続可能な社会の形成者になったと言えるのだろうが，現段階では，リサイクルに対する意識の向上が見られればよいと考える。授業では，家でのリサイクルよりも学校内で行っているペットボトルキャップ回収運動に関しての意識の向上が見られた。

多面的，総合的に考える力についていうと，他国の食文化の違いを，変だと捉えるのではなく，それを尊重したり逆の立場で自国の食文化を見ることができたりしていることが見て取れる。また，授業では，社会科とのつながりを意識して，社会科の授業で使った写真を用いたこともあってか，「社会科」を意識した振り返りも数件見られた。

〔課題〕

ＥＳＤの視点で１年生の授業を観ると，その内容に関しては，日本語で扱うものと比較すると，どうしても物足りなくなる。これは，この段階での語彙の乏しさに起因するもので，これは，英語教育の従来から語られている大きな課題である。ただ，今回の実践で他教科とつながることで，不足している内容を補うことの可能性が見えてきている。今後は，他教科との連携をより強化・充実することが重要であると考える。

②第２学年の成果と課題

２年生では，“The Pillow”（「言語比較」）と“Can Anyone Hear Me?”（「環境」「言語」）という，星新一氏の作品を原作とした題材を国語科と共通して扱い，二つの実践を行った。

一つ目の実践は生徒達にとって初めての長文読解であり，英語で物語を読む楽しみを味わうことができるよう単元計画を考えた。本文に書かれている語句や文としての意味を正確に理解した上で，物語が始まる前の話を考えさせた。一方で国語の時間では，この題材の原文である「新発明のマクラ」を読み，英語との表現の違いや英文に出てこない物語の背景を学んだ。

二つ目の実践ではまず途中まで物語を読ませ，本文に書かれている語句や文の理解をした。その後で疑問に思ったことを書いたり，その問いに答えたりして本文の背景にある話を推測させ，続きを書くという活動を行った。その後で原作の終末部分を読ませた。国語科では更にその後の物語を創作する活動を行った。以下は実践の最後に書いた生徒の感想である。

〔一つ目の実践〕

・日本語で書かれた「新発明のマクラ」と，英語で書かれた“The Pillow”では話が同じでもところどころの表現が違って比べてみておもしろかった。今回の，前の話を考えるという課題も英語だということもあってすごく単純なものになったけど，日本語でひねったものを作ってみてもおもしろいと思った。

・国語で原文を読み，この話はもっと深いことを知りました。英語にすると少し否定的な部分が肯定的になるなど違う所があっておもしろいと思いました。

・この“The Pillow”は国語の授業で原作と比較していて原作と少し違う部分もあり，より物語について知ることができた。

・“The Pillow”の前のお話を．考えるというのも，自分で単語を調べるきっかけになったり新しい文法を知るきっかけとなりました。国語の授業でも「夢のマクラ」という題名で扱い，これも英文と和文の違いを知ることになりました。

英語の授業では文の意味や物語の筋を理解するにとどまるが，国語の授業では英語で表現されていない部分を知り，作者や英訳者の意図を推測したり，物語が書かれた時代背景を知ることで，深く読むことができたと感じている。以下は二つ目の実践の最後に書いた感想である。（　）内は筆者による補足。

〔二つ目の実践〕

・国語と同時に勉強することで内容をより深く理解できたと思う。原作と英文にしたときの違いも見つけられた。

・英訳されると日本語とは異なる表現も多いけどそれも面白いと思います。まず「おーいでてこーい」が“Can Anyone Hear Me?”になっているのが面白かったです。

・“Can Anyone Hear Me?”は国語で扱ったものには書いてある内容でも英語のものにはなかったり違いについて知ることができました。

・国語の時間でも同じ物語を（学習）していたので内容を理解しやすかったけど，英語にするとこんなに短くなるんだと気付かされた。

・国語でやった（学習した）物語の文章と英語でやった（学習した）物語の文章を比べると英語では省かれている部分が多いと思った。

・国語の本文と英語の文を見ていると，国語の文より簡略化されていて英語の文の方がすこしわかりやすい感じもしました。

・英語と国語で１つの話について考えることで，文の内容を理解したり話のおもしろさなどを知ることができた。

・「おーいでてこーい」の原作を英語に直すと“Can Anyone Hear Me?”になる。このときもう“?”がついていてやっぱり原作とは違うなぁと感じた。日本語の感情は多様で英語よりも細かいところが多いけれど，英語ではその分何を思ったのか（を）読む側が考えることができるので，より自分流の読みものになるなぁと思った。

・英語だけでは少し難しく理解しにくい所もあったけれど，国語と同時進行でやる（学習する）ことで内容が時間をかからず（かけず）読解できたと思う。

・やっぱり英語は表現を省略している所が多いと思いました。逆に英語の方が複雑な表現で書かれているものってあるのかなと気になります。

二つ目の実践では，英語と日本語との言語の特性や表現の違いなど，更に細かなことに目を向けているのがわかる。この気付きは，様々な文化の違いを持つ人との意思疎通を行う際に必要な，相手を理解し受容しようとする態度や，自分の意見を伝えようと工夫する力につながるものであろう。これは英語科の目標である「コミュニケーション力の育成」又，ＥＳＤで重視する能力「コミュニケーションを行う力」と共通している。以下も二つ目の実践の後の感想である。

・いらなくなった古いもののことを考えずに新しいものだけをつくり続けるのは愚かなことだと気づきました。
・今まで穴に投げ入れた物が全て空から降ってくることになるので今まで経済的にも環境的にも良かった市もこれから最悪になることが予想されているのでこの話はとても恐いと思った。自分にはこの話が地球と同じことではないかと感じ，改めて地球の置かれている環境がヤバイ（危ない）ということが分かった。
・この話は「ごみ」が中心の話題となっているが，今の私たちに語りかけていることがあると思う。この話は，深く暗い穴にごみを入れ続けて返ってきたけど現代でいうと，今までの行いが環境問題や天然資源不足という問題となって返ってきている。
・すごく現在にも言える話だと思った。環境破壊が問題になっているけど，自分達が建物を建てたいから森林を破壊したりしているけど，その背景で困っている人達もたくさんいるのでちゃんと世の中全体を，皆のことを考えた行動が大事だと思った。

物語の続きを自分で考えて書いたり，お互いの文を読み合ったりした後に原作を読んだことで，物語が書かれた時代背景や作者の意図をより強く感じ，現代の自分たちが取るべき道を考えていることがわかる。これは，「未来像を予測して計画を立てる力」につながるものと考えられる。

今回の取り組みで，書くことの指導について課題があると感じた。書くことを単元の最終目標として明確にし，それが達成できるように段階を踏んで英語で表現する場面を持つことが重要であると考え，二つ目の実践では物語の続きを書く前に物語について質問を考え，それに対する答えを書くという活動を行った。さらに，生徒が書いた答えの中から共通して使えそうな表現を取りあげて指導したり，誤りを修正したりした。答えの表現を利用して物語の続きを書くことができると考えたためである。しかし実際は書きたいと思う内容を持つことはできても，適切な表現を考えて書くことができないという様子が見られた。書く内容を持たせた後に，物語の続きを書く際に使えそうな表現を教科書や質問・答えの中から生徒に自ら拾わせるような段階を用意するなどの工夫が必要であると考えられる。

③第３学年の成果と課題

３年生では，Program 8　Clean Energy sources において，社会科の公民分野「資源・エネルギー問題」とつながりがあると考え，実践を行った。本文の内容は，風力発電は温室効果ガスを排出しないクリーンなエネルギーであることや太陽エネルギーの仕組み等についてのものである。

社会の授業で，生徒たちは日本が抱えるさまざまな課題や問題点，今後期待される新しいエネル

ギー資源について学び，電力のベストミックスを企業，消費者，電力会社それぞれの立場で考えた。その後に，英語の授業で，「クリーンエネルギーの必要性」や「自分が思うベストクリーンエネルギー」を考え，それを英語で表現する活動を行ったが，社会で学習したことが大変効果的で，役立っていた。社会の時間に，自分の考えや意見を述べたり，他の生徒の考えを知って，思考がより深まったことで，英作文で自分の考えを短時間でまとめることができた生徒が多く見られた。「自分の意見を持っていたので，英作文がスムーズに書けた。」という声もあがっていた。他教科で得た知識が豊富であれば，英語での表現する際に，スムーズにアイディアが湧き，自信を持って，自分の考えを英語で述べることができる生徒が多くなるということがわかった。以下は，生徒の授業の振り返りのコメントである。

・いろいろな発電方法があることを知り，メリットとデメリットも考えて，英語で表現することができた。
・ＥＳＤについての話とのつながりを感じた。
・発電方法についての考えを習った文法で書けたし，文がくずれないよう自分の使える表現に置きかえて，作文することが大切だとわかった。
・ツバルだけでなく，もっと広い視野で環境を考えたり，似たような国際問題について考えることができた。
・さまざまなエネルギーから自分が最もよいエネルギーについて，意見を書くことができた。社会科などと関連づけて，ＥＳＤについての関心も深められたと思う。
・英語でも，ＥＳＤの観点から物事を考え，自分の意見を伝えることができてよかった。私も教育の面で，世界に貢献できる人になりたい。
・私たちの小さな行動の積み重ねで，地球の未来はまだまだ変われるとわかった。
・Clean Energy について考え，英語で表現することにより，Clean Energy の必要性をより感じることができた。
・ツバルの子どもたちにメッセージを書くことで，自分の生活を環境面で見直すことができた。
・他の人のメッセージを聞いて，私たちができることを改めて考えることができた。

今後の課題としては，生徒たちには，自分の考えを述べる際に，できるだけ中学校３年間の既習の文法や語彙を使って表現する力や，未習の語句でも相手にわかるように表現することができる英語運用能力も身につけさせたいと考えている。今回の授業においても，エネルギーに関連した難しい用語がたくさん社会の授業で出てきた。英語の授業で，自分の考えを表現する際に，日本語での考えをそのまま英語で表現しようとして，辞書で調べた語をそのまま使い，相手には伝わらない自分本位の表現をすることが，生徒たちに多く見られる光景である。辞書を有効に使い，語彙力を高めながら，相手に自分の考えを正確にわかってもらうことの大切さも意識させていかなければならない。他教科で学んだ知識を，英語の授業の際に，どんな単語や文法を使えば，相手に自分の考えを理解してもらえるのか思考し，判断して，よりよい表現をする力をつけさせることが，今後ますます必要になっていくと考える。

（２）教科の目標と思考力・判断力・表現力

どの学年においても他教科と題材のつながりを持ち，それを元に表現活動をすることで教科とし

ての思考力・判断力・表現力の育成を促進することができたと考えている。どの単元でどのような力を育てたいのか，そのためにはどの教科とつながることができるか，単元計画を立てることで他教科との連携が更に充実すると考えられる。

課題としては，生徒は表現したい考えがあるのだが，教科書の本文に出てくる表現だけではそれを伝えることができないことが挙げられる。そのため，辞書を使わせることもあったが，日本語の表現を単語だけをそのまま英語に直し，意味が通じない表現にすることがあった。手立てとして，他教科の題材の中に生徒が英語で表現することが予測できるものを集約し，表現集などのような形であらかじめ準備することが考えられる。又，表現の際の文法的な誤りを少なくするために，生徒が書いたものを公開しながら添削したり，共通して誤りが見られるものを共有したりした。今後は，知っている単語を使って自分の意見や考えを言うための多様な表現を全体で共有したり，教科書に関連した内容のものを読ませたりすることで，より多くの表現のモデルに触れさせることができ，書く技能を育成することにつながるものと考えられる。

1　題材名　リサイクル活動

2　ねらい

・相手に何をするのかたずねたり答えたりできる。／2人［2つ］以上の人［もの］について言える。／数をたずねたり答えたりできる。

・基本的な英文を用いて自分のリサイクル活動について言える。

3　学習活動

（1）What do you ～?で始まる疑問文とその答え方を学習する。

・日常の行動についてたずねたり答えたりする。

・教科書本文を通して，recycling day（資源ごみ回収日）について知る。

・自分の家（地域）のrecycling dayを調べてくる。

（2）複数形の概念を理解し，綴りと発音を学習する。（６月２６日）

・既習の名詞の複数形を用いて，基本的な情報のやり取りをする。

・教科書本文を通して，リサイクル活動の基本的な表現を知る。

◎問題解決場面　目標「自分のリサイクル活動について言える」

①自分の地域の資源回収日が言える We have a recycling day on the first Tuesday.

②地域で何をリサイクルしているかが言える We collect books and bottles.

４人班でリサイクルしている物を話し合い，それをクラスで共有して整理することで，思考する一手法を学ぶ。

③家で何を集めているが言える We (don't) collect PET bottles at home.

④収集場に持っていくが言える I (don't) take the bottles to the collection site.

（3）How many ～?で始まる疑問文とその答え方を学習する。

・身近なことに関して，基本的な情報のやり取りをする。

・教科書本文を通して，リサイクルする活動で集めたペットボトルキャップが，ポリオワクチンの購入に役立ち，発展途上国の子どもたちを救うことにつながることを知る。

4　ＥＳＤとの関連

（1）構成概念

Ⅲ有限性…地域を挙げて行うリサイクル活動を通して，大事な資源を再活用することに気づく。

Ⅴ連携性…ペットボトルキャップをリサイクルする活動が，結果的にだれかの役に立っていることに気づく。

（2）能力・態度

④コミュニケーションを行う力

⑦進んで参加する態度

【教科の目標（評価規準）】

・初歩的な英語を用いて，自分のことや身近なことについて紹介したり，人の話を聞いて質問したりすることができるようにする。（教科の目標）

・What do you ～?で始まる疑問文を用いることができ，それらの疑問文に適切に応答できる。（単元の目標：評価規準）

（3）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　リサイクル

②教科　理科，技術・家庭（技術分野），技術・家庭（家庭分野）

③題材　「いろいろな物質とその性質」（理科　１年）

「設計」（リサイクル）（技術　１年）

「食生活と自立」（ゴミの減量）（家庭　１年）

1　題材名　国際フードフェスティバル

2　ねらい

・友だちや身の回りのものを紹介したり，たずねたり答えたりできる。／物・人がどこにある・いるのかたずねられる。／家族や友だちについてはなせる。

・食文化を通して，国際理解・異文化理解を深める。

3　学習活動

（１）This is ～. / That is ～.で始まる文とその疑問文・答え方を学習する。

・近くにあるものや人，遠くにあるものや人について説明したりたずねたりする。

・教科書本文を通して，食文化（≒異文化）の違いについて触れる。

・さまざまな食の例を通して，食文化（≒異文化）の違いについて理解を深める。

◎問題解決場面　目標「食文化の異なる人同士の会話を考えよう」（９月４日）

①日本ではほとんど食されないインドやアンデスなどの食べ物について知る。

②それら日本ではほとんど食されない外国の食べ物が，そこの風土や環境に影響を受けていることを想起させる。

③上記２つを受けて，食文化の異なる日本人とアンデス地方の人との会話を考える。

④応答から疑問文を考えたり，疑問文から答えを考えたり，さらには，日本独自の食材に目を向けさせたりする。

⑤上の課題は，個人で考えた後，グループで共有・発表する。

（２）疑問詞whereとそれに伴う前置詞を学習する。

・身近にあるものや建物などについて，たずねたり答えたりする。

・教科書本文を通して，衣類の文化の違いを理解する。

・食文化と同様に，衣類にも国によって違いがあることを知る。

（３）３人称の代名詞 heとshe，および，それらを用いたbe動詞の疑問文と答え方を学習する。

・ある人物について，二つ以上の情報を相手に伝える。

・ある人物について，たずねたり答えたりする。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ｉ多様性…自国では食べないが，他国では食べられている食材が様々あることに気づく

（２）能力・態度

③多面的・総合的に考える力

④コミュニケーションを行う力

【教科の目標（評価規準）】

・外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。（教科の目標）

・相手の持ちものについて適切に尋ねることができる。／ものがどこにあるか適切に質問することができる。／he・sheを正しく用いて人について話すことができる。（単元の目標）

・食文化を通して，国際理解・異文化理解を深める。（単元の目標）

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　国際理解

②教科　社会，技術・家庭（家庭分野）

③題材　「世界各地の人々の生活と環境」（社会　１年）

「食生活と自立」（食文化）（家庭　１年）

1　題材名　If You Wish to See a Change

2　ねらい

・動作についていえる。／人やものの様子や状態について言える。／だれかに何かを与えるということを言える

・初歩的な英語を用いて，環境に関する自分の考えを書くことができる。

3　学習活動

（１）動名詞を用いて「～すること」という表現を学ぶ。また，本文を通して身近な環境について考える。

・自分の好きなことや得意なことについて動名詞を使って表現する。

・本文を読み，環境のために自分ができることを考え英語で書く。（１０月２２日）

◎問題解決場面　目標「環境のために自分ができることを考え英語で書く」

①教師と英語で対話をしながらSevern簡単な経歴を知る。

②本文の音声だけを聴いて，時と場所の基本情報を聞き取る。

③本文を黙読した後，未習語を教師に質問し意味を確認する。

④本文の概要を確認する。

⑤３回の音読練習をする。

⑥「伝説のスピーチ」の一部をYouTubeで試聴する。

⑦本文に戻り，セヴァンの主張として重要だと思う文を抜き出す。

ア　If you can't fix the environment, please stop breaking it!

イ　We must change our lifestyles to save the animal and plants.

ウ　... she knew that we are all part of a big family.

⑧（上のイの下線部を受けて，）自分たちのライフスタイルが，今どうなっているのかを見直してみる。その際，衣(Clothing)，食(Food)，住(Shelter)，その他(Other things)の観点から１つ選び，マインドマップを作成することで情報を整理する。

⑨"What will you do to save the environment?"という課題を受け，マインドマップの中から環境保護のために，自分が何かできる可能性のあるものに赤丸をつけ，日本語と英語で書く。（宿題）

・代表生徒の英語を読むことで，環境に関する英語表現を学ぶと共に，既習事項で自分の考えを表すことができることを学ぶ。

（２）相手の持ち物を見て「～に見える」と表現することを学ぶ。また，本文を通して世界と自分との関わりについて考える。

（３）誕生日などに誰に何をあげるかをgiveを使って表現する。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ⅲ有限性…将来世代のために，有限な自然環境がどんどん破壊されていることに歯止めをかけないといけないこと。

Ⅴ相互性…地球に住む人みんなが，大きな一つの家族の一員としてかかわっていること。

（２）能力・態度

④未来像を予測して計画を立てる力

⑦多面的・総合的に考える力

【教科の目標（評価規準）】

・自分の好きなこと等ついて動名詞を使って表現することができる。／相手の様子を見て「～に見える」と的確に表現できる。／誰に何をあげるか等をgiveを使って適切に表現できる。

・初歩的な英語を用いて，自分の考えを書くことができる。

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　リサイクル

②教科　技術・家庭（家庭分野）

③題材　「わたしのアクション」（衣生活と自立）（家庭　２年）

1　題材名　Charity Walk

2　ねらい

・「しなければならない」義務や必要性について自分の考えを表現することができる。

・チャリティーの意義について知り，自分たちも社会に貢献することができることを感じることができる。

3　学習活動

（1）Must とhave to　の違いを確認する。

・「客観的に見て必要性があるが選択肢はある」「話し手自身がとても強い必要性を感じている」など，表の中に日本語で書かれている文を見てそれがmustなのかhave to なのか考えて書く。

（2）「しなければならないこと」を表現する。ワークシートを用いる。

・空欄の後の語句を読んで，それぞれmust, have to, don't have to のいずれかを書く。

例：Ｉ(　　) wear glasses.　Ｉ(　　) get up early before 6:00.

・ペアを作り，お互いの書いたものを言い合う。

・日本語で書いてあるような場合，しなければならないことを英語で書く。

例：　火事を見つけたら　→　call 119

運動をしてたくさん汗をかいた→ drink water / take an shower

・各自がワークシートに「自分がしなければならないこと」についてのマインドマップを描く。

・「自分がしなければならないこと」について意見を出し合い，教師が黒板にマインドマップを描く。

・黒板に書かれた語句を「誰もがしなければならないこと」「よりよい社会を作るためにしなければならないこと」のどちらに分けられるか，また分けられないかについて考え，黒板に描かれたマインドマップの語句をそれぞれに異なる色でかこむ。

・自分のマインドマップも同じように色分けする。

（3）より良い社会を作るために「誰もがしなければならないこと」を英語で書く。

◎問題解決場面

目標「義務や必要性についてmust have to を用いて自分のことを書くことができる」

・教科書本文に出てきたCharity Walk の内容や表現を思い出す。

・マインドマップをもとにし，「しなければならないこと」を文に書く。

・本時の取り組みに対して感想や学んだことや課題を書く。

4　ＥＳＤとの関連

（1）構成概念

Ｖ連携性…持続可能な社会の維持のために，お互いの連携や協力が必要であり，一人一人の積極的な姿勢が大切であること

（2）能力・態度

⑦進んで参加する態度

【教科の目標（評価規準）】

より良い生活のために「自分がしなければならないこと」，より良い社会のために「誰もがしなければならないこと」を，必要に応じてmustや have to を用いながら書くことができる。

（3）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　社会参画，人権

②教科　社会

③題材　「人権」「国民の義務」（３年　公民分野）

1　題材名　The Pillow

2　ねらい

・それぞれの語句の意味を知り，本文の内容を理解することができる。

・物語の背景や登場人物の行動，心情などを推測し，物語が始まる前の話を書くことができる。

3　学習活動

（1）ブレーンストーミングをする。

・「博士はなぜマクラを作ろうと思ったのか」教師からの問いかけに，日本語で自由に意見を言う。

・教師が黒板に意見を書き英語で書きかえるのを見て，英語の表現を知る。

（2）「物語が始まる前の話」を書く。

・ワークシートに自分が考えた話を書く。

・自分が書いた話を音読する。

・隣の人とお互いに読み合い，文法的な誤りや分かりにくい表現を直す。

（3）「物語が始まる前の話」を読み合う。

・４～５人のグループを作り，順番に読む。

・何人かの生徒が全体の前で読むのを聞く。

・感想や学んだことを日本語で書く。

◎問題解決場面

目標「物語が始まる前の話を自分で考えて書くことができる」

・物語の背景や登場人物の行動，心情を推測し教科書本文が始まる前の話を書く。

・書いたものを友達と交換して読み合う。

（4）生徒の感想

・日本語と比較して英語を学べたので，日本語の特徴とともに，英語の文章を読む力がとてもつきました。

・日本語で書かれた「新発明のマクラ」と，英語で書かれた“The Pillow”では，話は同じでもところどころの表現が違って，比べてみて面白かった。

・「新発明のマクラ」と，“The Pillow”を国語，英語で読んで，短いけれど笑えるところがあっておもしろいなぁと思った。

4　ＥＳＤとの関連

（1）構成概念

Ｖ連携性…自分の考えを話したり人の考えを聞いたりすることで，異なる価値観があることを知り，それらを受け入れたり異なる視点から考えたりすることが大切であるということ。

（2）能力・態度

④コミュニケーションを行う力

【教科の目標】

物語文を通して読み，内容を理解する中で英語特有の表現に触れ，日本語との差異に気付くことができる。

（3）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　その他，言語比較

②教科　国語

③題材　「新発明のマクラ」（２年）

1　題材名　Can Anyone Hear Me?

2　ねらい
・物語を読んで疑問に思ったことを書くことができる。
・物語の背景や作者の意図を推測し，物語の続きを予想して書くことができる。

3　学習活動
（１）物語の内容理解
第１時
・物語を三つの部分に分け，その内の最初の場面を黙読する。朗読を聞く。
・順序がバラバラになっている文章を本文に合うように並べ替える。
・英語の質問に答える。
・単語，本文の音読練習をする。
第２時
・二つ目の場面を黙読する。朗読を聞く。
・TFの質問に答える。
・単語，本文の音読練習をする。
（２）物語を読んで疑問文を書く。
・疑問に思ったことを自由に言う。
・自分が疑問に思ったことを１～２文，英語で書く。それに対する自分の考えを書く。
（３）物語の続きを予想する。
第３時
・前時までに読んだ物語を黙読する。朗読を聞く。
・自分たちが考えた疑問文（教師がまとめたもの）に対して自分の考えを書く。
・ペアで考えを言い合う。全体で発表し合う。
・物語の続きはどうなると思うか。１～３文で書く。
・グループでお互いの文を読み合う。全体で発表する。
・物語の最後の場面を黙読する。朗読を聞く。
・感想や学んだことを日本語で書く。
◎問題解決場面
目標「物語を読んで疑問文を書いたり，物語の続きを予想したりして書くことができる」
・物語の背景や作者の意図を推測し，物語の続きを予想して書く。
・書いたものを友達と交換して読み合ったり，考えを言い合ったりする。

4　ＥＳＤとの関連
（１）構成概念
Ⅵ　責任性…我々が住む地域や国の環境は，我々自身が指標を持って行動し，守っていく責任があるということ。
（２）能力・態度
②未来像を予測して計画を立てる力
【教科の目標】
物語を読んで質問文を作ったり，物語の続きを予想したりすることで本文を深く理解しようとする意欲を持たせることができる。又，自分の考えを書いたり，人に話したりすることを通して外国語を表現する能力を育成することができる。
（３）教材の「つながり」
①ＥＳＤ関連分野　環境，言語
②教科　国語
③題材　「おーい　でてこーい」（２年）

1　題材名　PROGRAM 8　Clean Energy Sources

2　ねらい
環境問題（地球温暖化防止）について，これから自分ができることは何か，自分の意見や考えを英語で述べることができる。

3　学習活動

1. Review
・前時にどの発電方法について，自分の考えを書いたか確認する。
［wave power　/　geothermal power　/　wind power /　solar power　］
<その他：thermal power,　water power,　nuclear power >
・今後私たち（日本）はクリーンエネルギーを使っていくべきか，なぜそう思うのか述べる。

Keyword：　not use fossil fuels　/　save the environment　/　stop global warming
stop climate change　/　not give off CO2 (greenhouse gases) /　limited fossil fuels

2. Introduction of Today's class
（1）　ツバルの現状を聞いて，環境問題について考える。
「地球温暖化，しずみゆく楽園ツバル」　写真・文　山本敏晴（NPO法人　地球船地球号）

（課題）　"What can we do to stop the global warming and help Tuvalu?"
～ツバルの中学生に「自分の取り組み」についてのメッセージを送ろう。～

（2）ワークシート Step 1
ペアで自分が「できること」「すべきこと」や「これからすること」についてお互いに言い合う。
（3）　ワークシート Step 2
マインドマップで自分の考えを深める。
（4）　ワークシート Step 3
ツバルの中学生へのメッセージを３，４文の英語で言えるように，考えを書く。
（5）　ワークシート Step 4
グループで発表し，助言・感想を伝え合う。

3. Consolidation
・数名の生徒がクラス全体に発表する。

4. Closing
・English Learning Journalを書いて，振り返りをする。

4　ＥＳＤとの関連
（1）　構成概念　　Ⅰ　多様性　　Ⅵ　責任性
さまざまな発電方法やその問題点を知り，エネルギーや環境問題について考える。（多様性）
環境問題から，これから自分がすべきことやできることを考え，発信していく。（責任性）
（2）　態度・能力
②未来像を予測して計画を立てる力
・地球温暖化の防止のために，これからの生活の中で，自分がすべきことを考え，発表できる。
（3）　教材の「つながり」
①　ＥＳＤとの関連　　環境
②　教科　　社会
③　題材　　資源・エネルギー問題